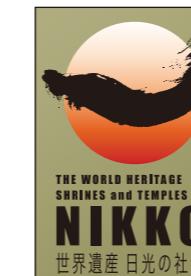
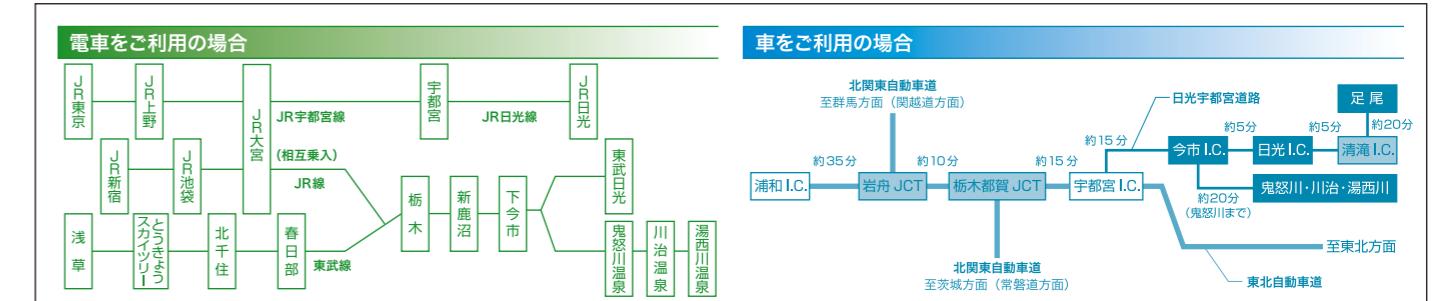




日光 届け未来 力



このパンフレットは、平成26年に世界遺産登録15周年を迎える世界遺産「日光の社寺」の魅力を再発信するために作成したものです。

【発行】栃木県日光市企画部総合政策課 URL: www.city.nikko.lg.jp

〒321-1292 栃木県日光市今市本町1番地 Tel: 0288-21-5131 Fax: 0288-21-5109

【作成協力】日光東照宮 日光山輪王寺 日光二荒山神社 財団法人日光社寺文化財保存会

日光フォトコンテスト実行委員会 (順不同、敬称略)

無断転載・複製禁止
2012.09.0010Y

～うつそうとした森に深い歴史が息づく～



登録資産および緩衝地帯

登録資産の範囲は、日光山内にある二社一寺およびこれらの建造物群を取り巻く「遺跡」です。

登録遺産の周辺には、それを取り巻く環境や雰囲気をも保護するために、緩衝地帯が設けられています。



【家光廟大猷院】

三代將軍家光公の墓所が家光廟大猷院です。家康公を心から尊敬していた家光公は、「自分の死後も東照大権現に仕える」との遺言を残しました。現在、国宝となっている大猷院靈廟本殿、相の間、拝殿は、1653(承応2)年に造営されたものです。建物は東照宮の方向を向いており、ここにも家康公を慕う心が表れています。



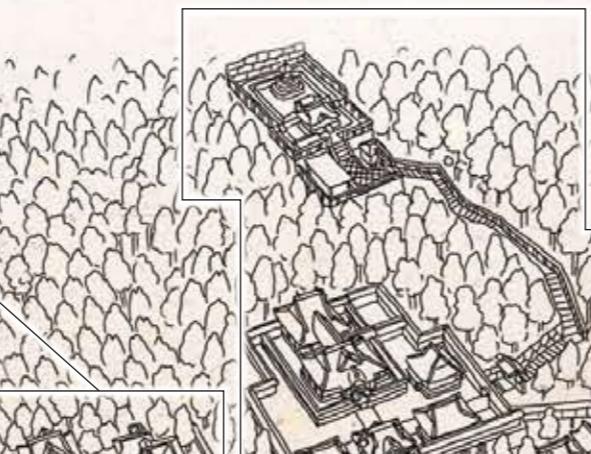
【慈眼堂】

慈眼堂は天海大僧正の墓所です。天海は日光山貴主として入山しました。家康公が駿府で亡くなると、東照社の創建に力を尽くします。東照社を絢爛豪華な建物に建て替えた際にも強い影響力を与えたとされます。衰退していた日光山を建て直した功労者です。



【日光二荒山神社】

靈峰とあがめられた二荒山(男体山)が名前の由来です。勝道上人は辛苦の末に登頂を果たし、二荒山神社のもととなる祠を築きました。山岳信仰の興隆の中で、男体山、女峰山、太郎山の三山に大己貴命、田心姫命、味耜高彦根命が宿るとみなして三神が祀られるようになり、日光三社現とも呼ばれました。本社の本殿は二代將軍秀忠公が1619(元和5)年に造営・寄進したものです。



【日光東照宮】

日光東照宮は徳川家康公の遺言に基づき、二代將軍秀忠公により「東照社」として1617(元和3)年に建立されました。家康公は江戸からほど真北の位置にある日光の地から、世の平和を見守ることを願ったのです。家康公を敬慕してやまない三代將軍家光公は、1年5ヶ月の期間をかけ、延べ454万人の人員を投入して「寛永の大造替」を行い、絢爛豪華な建物に建て替えました。現在残っている建造物の多くはこの時に造営されたものです。精巧な彫刻に彩られた国宝の陽明門や本殿・石の間・拝殿など、随所に当時の最高水準の技術が用いられています。



【日光山輪王寺】

日光開山の祖勝道上人が8世紀末に創建した四本龍寺を起源としています。輪王寺はお寺やお堂、15の支院の総称です。山岳信仰の場として多くの行者を集めました。明治になって政府から神仏分離令が出されると、日光山は厳しい立場におかれます。かつてあった109のお寺は満願寺だけに併合されてしましました。三仏堂はこの時に二荒山神社付近から現在の場所に移りました。このような悲運に見舞われたものの、1882(明治15)年に一山15ヶ院が復興し、翌年には輪王寺の呼称も復活しました。



【神橋】

日光を開くため大谷川を渡ろうとしていた勝道上人が、激流に阻まれて難儀していたところ、深沙王の放った2匹の蛇が橋となって渡ることができたという伝説が残っています。朱塗の美しい橋で国の重要文化財に指定されています。また山口錦帶橋、山梨県猿橋とともに、日本三大奇橋の1つに数えられています。

神仏が共に刻んだ歴史（いにしえの日光山）

輪王寺は日光を開山した勝道上人による四本龍寺を起源としています。日光山の中、心的な寺院として発展し、1653（承応2年）に三代将軍家光公の靈廟である大猷院が造営されると、徳川幕府の尊崇を集めるようになりました。

明治政府の神仏分離令によって混乱しましたが、これを乗り越え、現在に至っています。

日光山輪王寺



半解体修理の様子を工事期間中に限り回廊から見ることができます。

【三仏堂】（重文）

日光の三山（男体山、女峰山、太郎山）を御神体とみる山岳信仰との習合により、その本地仏の千手観音（男体山）、阿弥陀如来（女峰山）、馬頭観音（太郎山）が祀られています。慈覚大師円仁が比叡山の根本中堂を模して建立したともいわれています。建物は創建当時は滝尾神社近くにありましたが、鎌倉三代将軍源実朝公によって

照宮創建によって現在の二荒山神社付近に移り、明治の神仏分離によって今の場所に移築されました。現在、2020（平成32）年の完了を目指して本堂の半解体修理を行っています。

【開山堂】（重文）

日光を開いた勝道上人を祀る靈廟です。1720（享保5）年ごろに造営されたもので、重層宝形造、総弁柄朱漆塗の建物です。木造の本尊地蔵菩薩、勝道上人座像が安置され、毎年4月1日には開山会法要が営まれています。開山堂の裏に、五輪の塔が立つ勝道上人の墓があります。

輪王寺にはほかにも多数の貴重な建造物があり、見飽きることがありません。



山岳修験道のなごりを残す、強飯式の様子。

東照宮が白と金を基調にしているのに対し、大猷院は金と黒を基本としており、金箔も東照宮よりも、東照宮と同じ「権現造」です。第一級の技術者の手による江戸時代初期の代表的な建築で、国宝に指定されています。彫刻、漆塗、彩色、錆金具などの建築装飾に優れており、目立たない部分にもさまざまな技巧が凝らされています。

東照宮が白と金を基調にしているのに対し、大猷院は金と黒を基

本としており、金箔も東照宮よりも、

赤みがかったものを使用しています。

東照宮が白と金を基調にしているのに対し、大猷院は金と黒を基

本としており、金箔も東照宮よりも、

